

埼玉県ケアラー支援計画のための ケアラー実態調査結果 (介護者サロン)

(内容)

1. ケアラーの属性
2. 被介護者の属性
3. ケアの状況
4. ケアの影響
5. ケアラーが抱える悩みと必要な支援
6. その他

ケアラー実態調査の目的・内容及び分析方法

調査目的及び主な調査内容

【調査目的】

・ケアの状況、ケアラーへの影響、困りごと、支援ニーズ等を把握し計画の策定に役立てる。

【主な調査項目】

・ケアラー自身について ・ケアの状況について ・ケアの影響について ・ケアに関する相談について
・求める支援について など

【調査区域】

・埼玉県全域

【調査対象】

・県内介護者サロンを利用している介護者（ケアラー）。
・県内介護者サロン22か所＝約175人

【回答者数】

・94人（回収率：53.7%）

分析方法

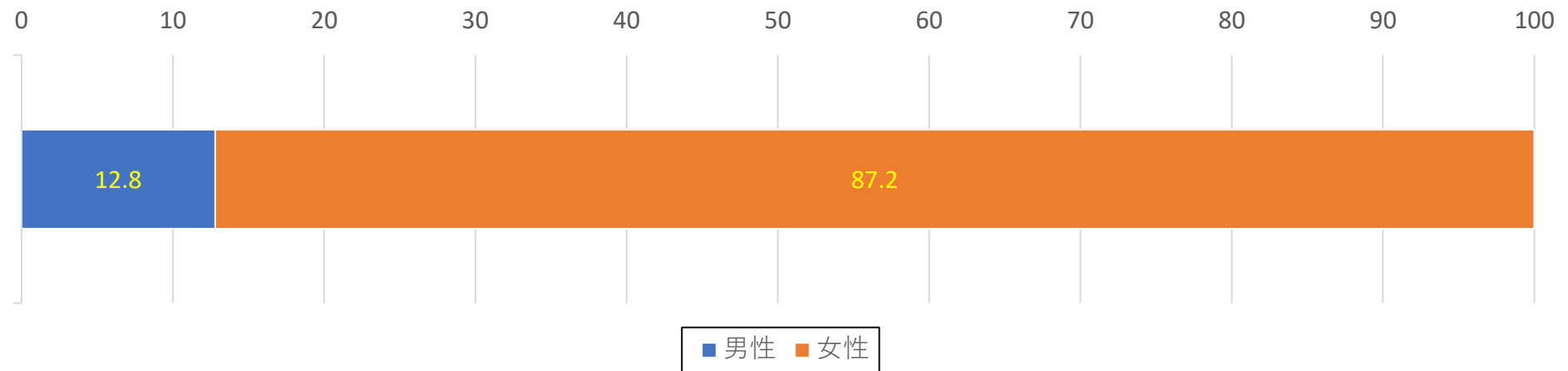
- 調査票各設問の単純集計を行い、実態調査結果に関する詳細な分析を行った。
- 設問の内、ケアラーがケアする被介護者に関する事項に関する設問を集計する際は、被介護者（112人）毎に集計を行った。

1.ケアラーの属性

1-1 ケアラーの性別

- ケアラー本人（N=94）の性別の構成割合をみると、「男性」12.8%、「女性」87.2%であった。

図表1-1. ケアラーの性別の割合



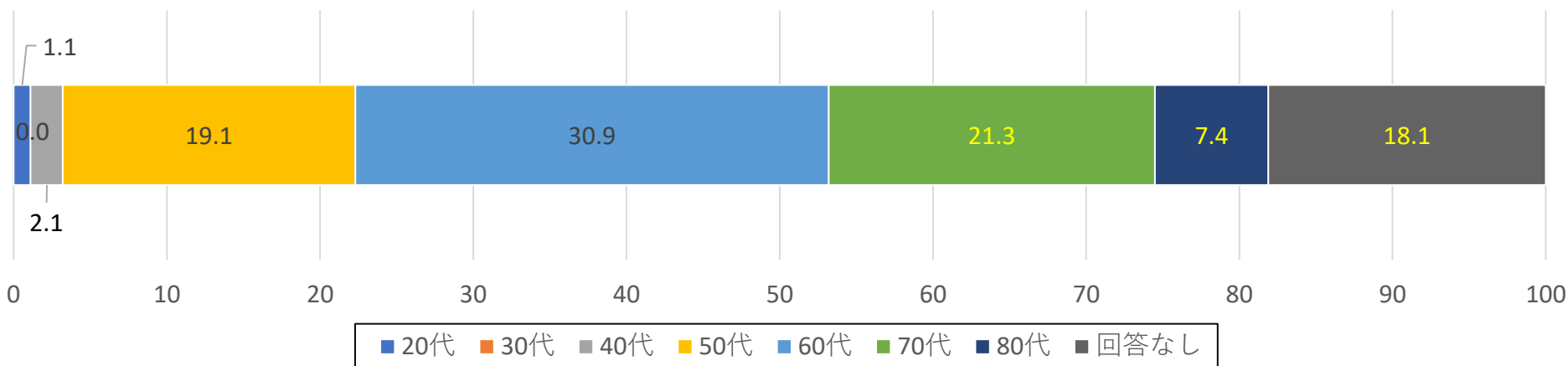
	男性	女性
ケアラー総数 (N=94)	12	82
割合 (%)	12.8	87.2

注) 本集計はケアラー本人（94人）に対して行われている。

1-2 ケアラーの年齢

- ケアラー（N=94）の年齢の構成割合をみると、「60代」（N=29）が30.9%で最も高く、次いで「70代」（N=20）が21.3%、「50代」（N=18）が19.1%の順であった。（平均：65.5歳）

図表1-2. ケアラーの年齢の割合



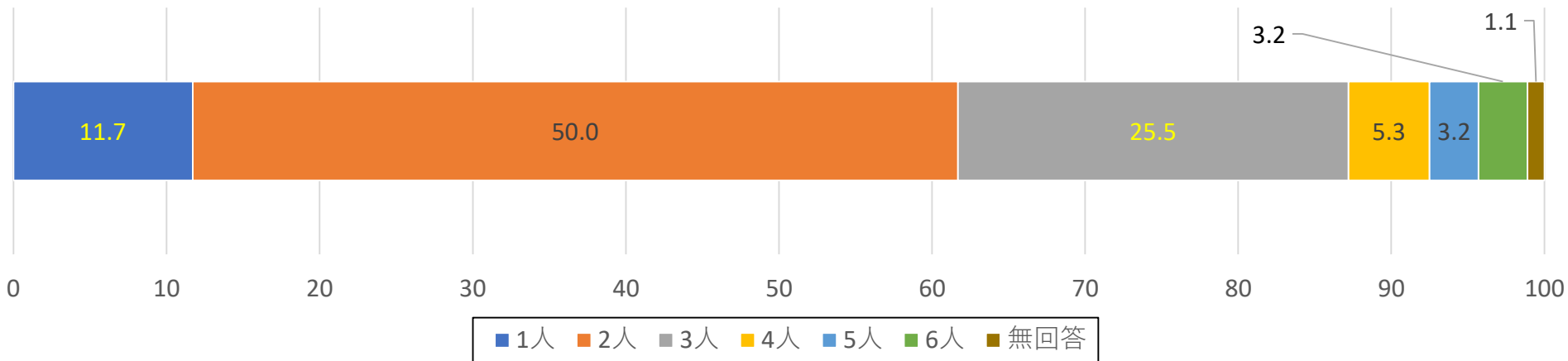
	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	回答なし
ケアラー総数 (N=94)	1	0	2	18	29	20	7	17
割合 (%)	1.1	0.0	2.1	19.1	30.9	21.3	7.4	18.1

注) 本集計はケアラー本人（94人）に対して行われている。

1-3 ケアラーの同居家族

- ケアラー（N=94）の同居人数（自身を含む）の構成割合をみると、「2人」（N=47）が50.0%で最も高く、次いで「3人」（N=24）が25.5%、「1人」（N=11）が11.7%の順であった。

図表1-3. ケアラーの同居人数の割合



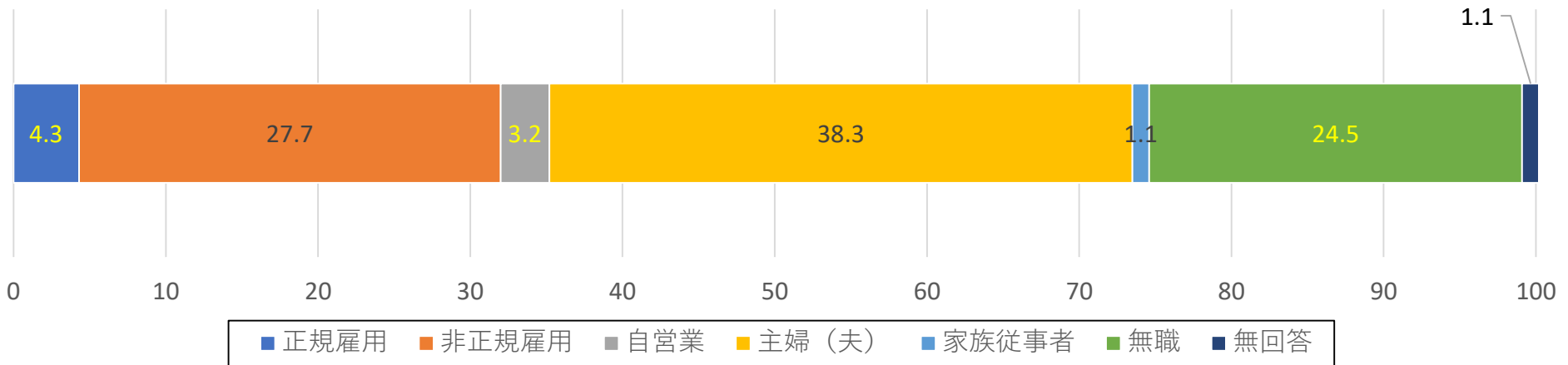
	1人	2人	3人	4人	5人	6人	回答なし
ケアラー総数 (N=94)	11	47	24	5	3	3	1
割合 (%)	11.7	50.0	25.5	5.3	3.2	3.2	1.1

注) 本集計はケアラー本人（94人）に対して行われている。

1-4 ケアラーの就労状況等

●ケアラー（N=94）の就労状況等の構成割合をみると、「主婦（夫）」（N=36）が38.3%で最も高く、次いで「非正規雇用」（N=26）が27.7%、「無職」（N=23）が24.5%の順であった。

図表1-4. ケアラーの就労状況等の割合



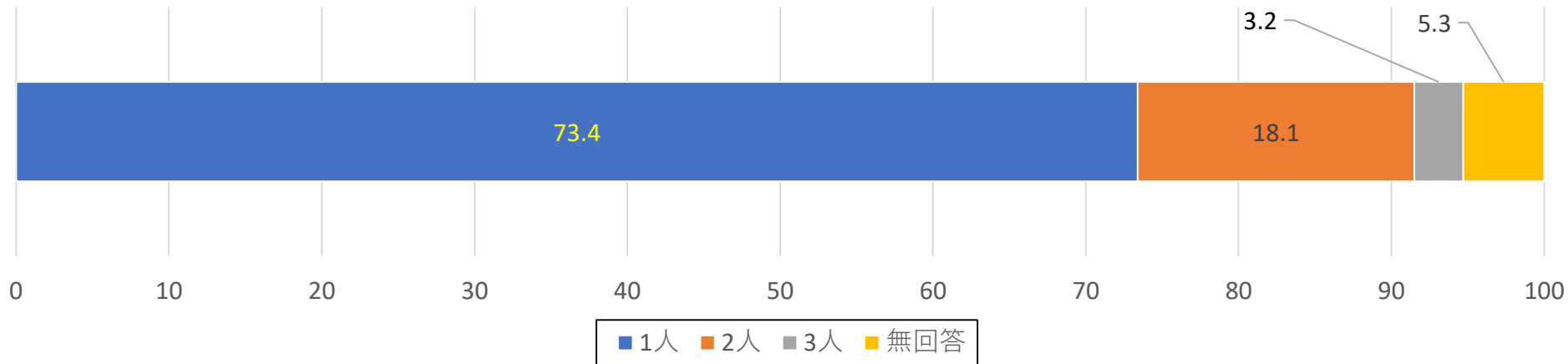
	正規雇用	非正規雇用	自営業	主婦(夫)	家族従業者	無職	回答なし
ケアラー総数 (N=94)	4	26	3	36	1	23	1
割合 (%)	4.3	27.7	3.2	38.3	1.1	24.5	1.1

注) 本集計はケアラー本人（94人）に対して行われている。

1 - 5 ケアラーがケアしている人数

- ケアラー（N=94）のケアしている人数（被介護者人数）の構成割合をみると、「1人」（N=69）が73.4%で最も高く、次いで「2人」（N=17）が18.1%、「3人」（N=3）が3.2%の順であった。

図表1-5. ケアラーのケアしている人数の割合



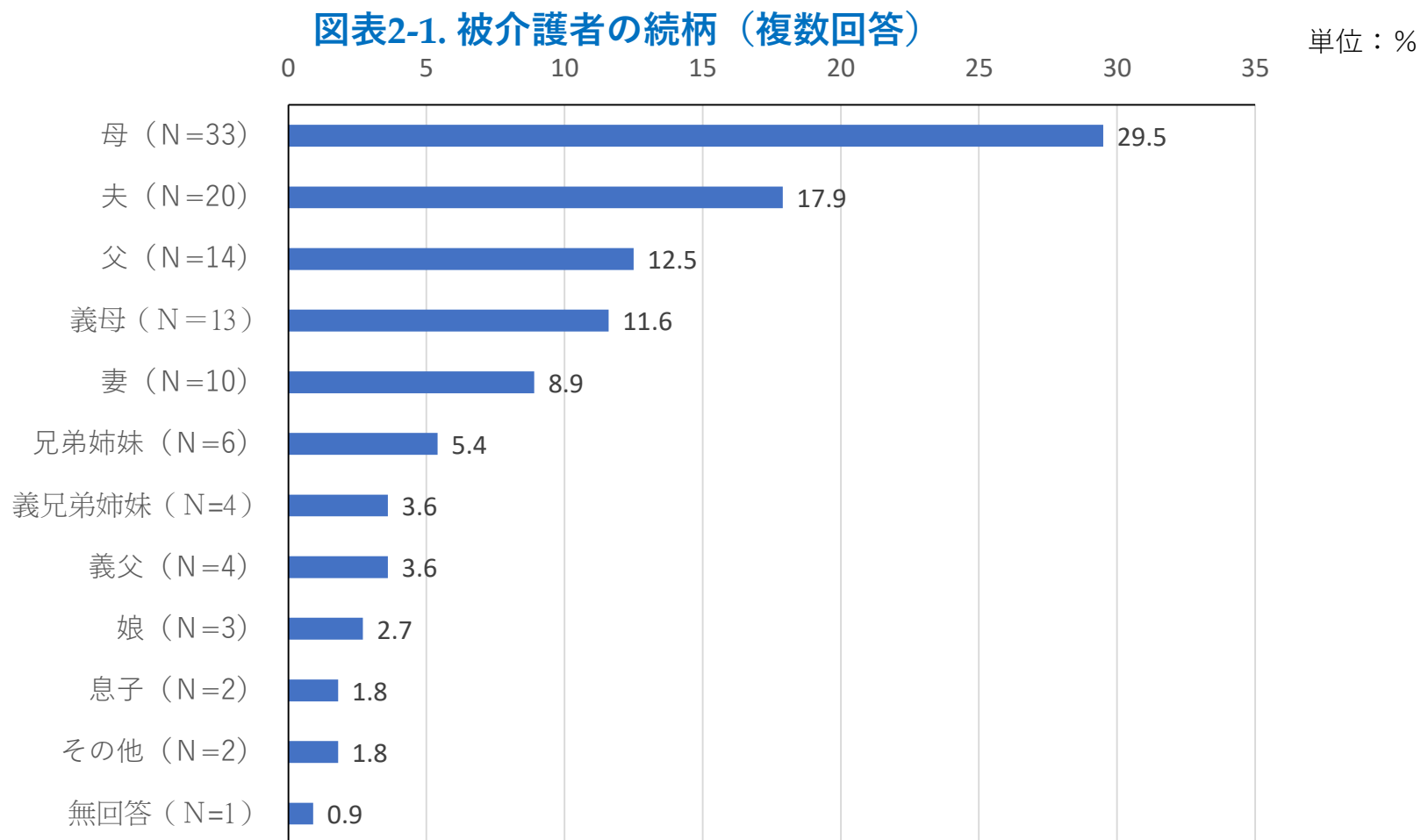
	1人	2人	3人	回答なし
ケアラー総数 (N=94)	69	17	3	5
割合 (%)	73.4	18.1	3.2	5.3

注) 本集計はケアラー本人（94人）に対して行われている。

2.被介護者の属性

2-1 被介護者の続柄

- 被介護者（N=112）のケアラーとの続柄の構成割合をみると、「母」（N=33）が29.5%で最も高く、次いで「夫」（N=20）が17.9%、「父」（N=14）が12.5%の順であった。

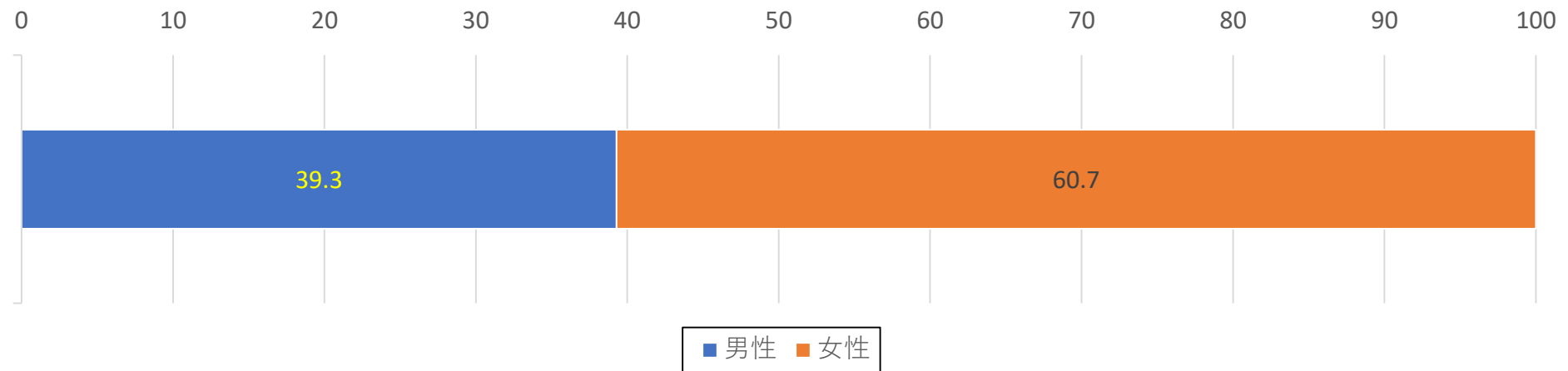


注) 本集計は被介護者数 (112人) に対して行われている。

2-2 被介護者の性別

- 被介護者（N=112）の性別の構成割合をみると、「男性」（N=44）39.3%、「女性」（N=68）60.7%であった。

図表2-2. 被介護者の性別の割合



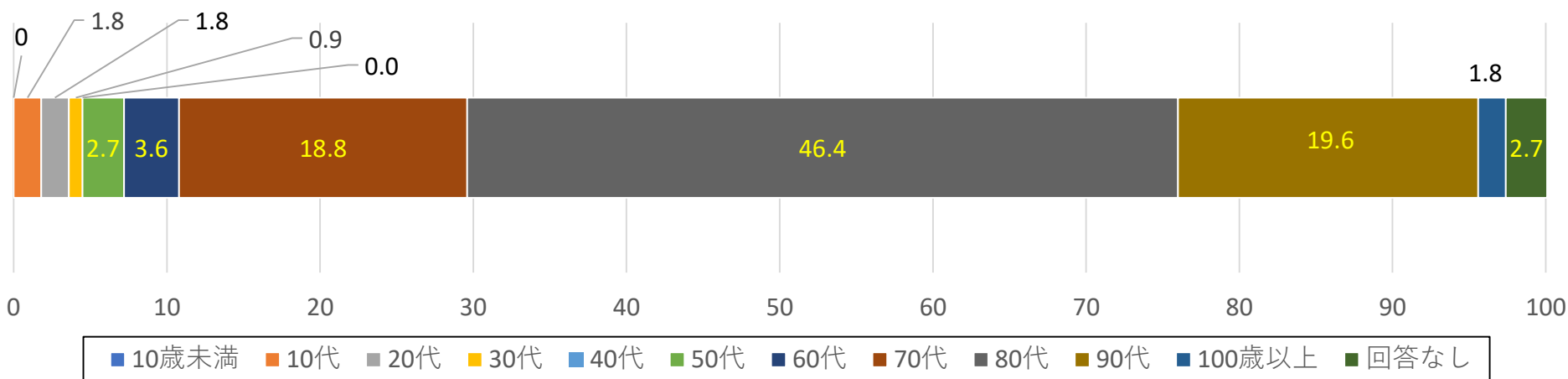
	男性	女性
被介護者数 (N=112)	44	68
割合 (%)	39.3	60.7

注) 本集計は被介護者（112人）に対して行われている。

2-3 被介護者の年齢

- 被介護者（N=112）の年齢の構成割合をみると、「80代」（N=52）が46.4%で最も高く、次いで「90代」（N=22）が19.6%、「70代」（N=21）が18.8%の順であった。

図表2-3. 被介護者の年齢の割合



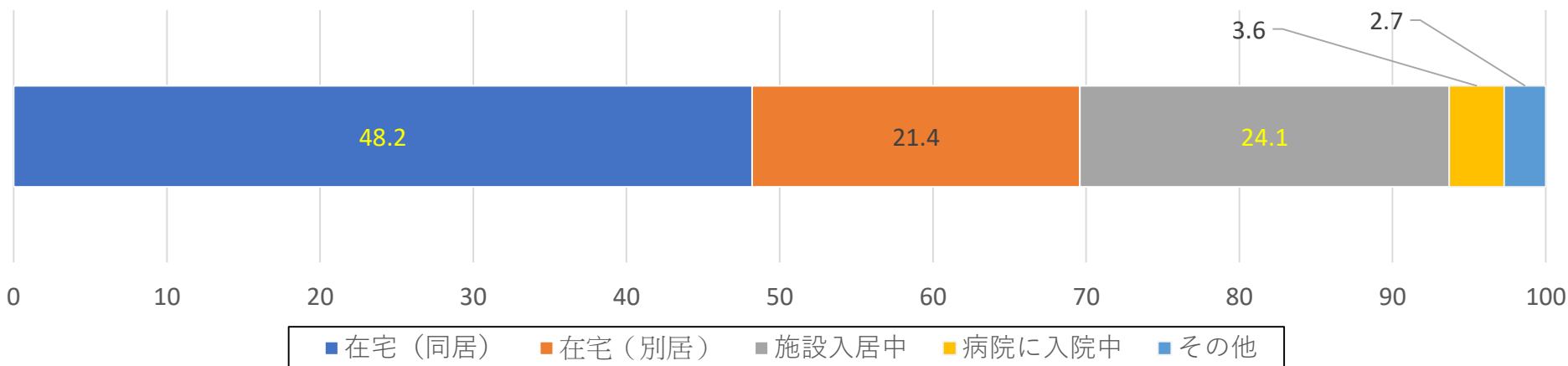
	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	100歳以上	回答なし
被介護者数 (N=112)	0	2	2	1	0	3	4	21	52	22	2	3
割合 (%)	0.0	1.8	1.8	0.9	0.0	2.7	3.6	18.8	46.4	19.6	1.8	2.7

注) 本集計は被介護者（112人）に対して行われている。

2-4 被介護者の生活場所

- 被介護者（N=112）の生活場所の構成割合をみると、「在宅（同居）」（N=54）が48.2%で最も高く、次いで「施設入居中」（N=27）が24.1%、「在宅（別居）」（N=24）が21.4%の順であった。

図表2-4. 被介護者の生活場所の割合



	在宅（同居）	在宅（別居）	施設入居中	病院に入院中	その他
被介護者数 (N=112)	54	24	27	4	3
割合 (%)	48.2	21.4	24.1	3.6	2.7

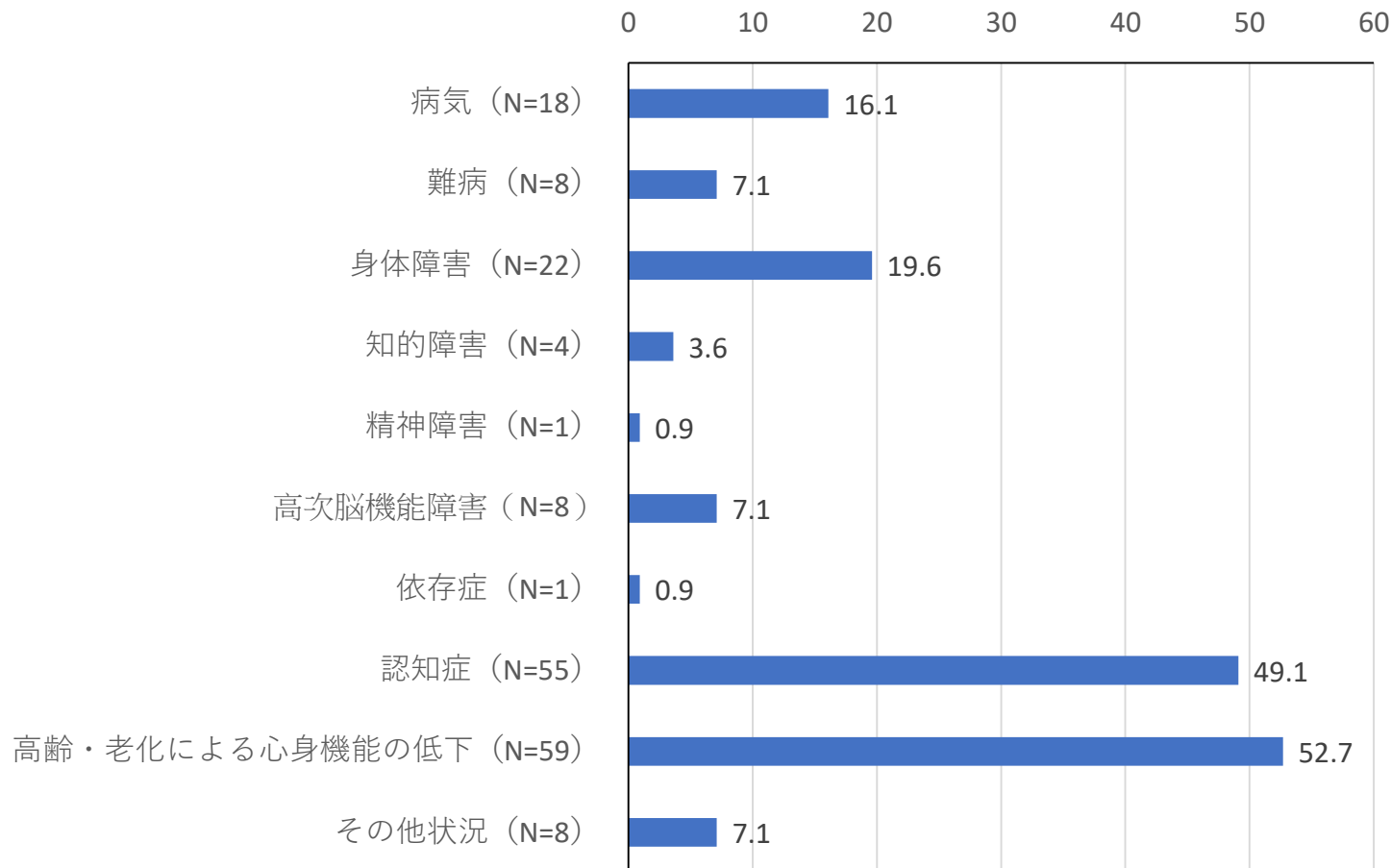
注) 本集計は被介護者（112人）に対して行われている。

2-5 被介護者の状況

- 被介護者の状況（N=112）をみると、「高齢・老化による心身機能の低下」（N=59）が52.7%で最も高く、次いで「認知症」（N=55）が49.1%、「身体障害」（N=22）が19.6%、「病気」（N=18）が16.1%の順であった。

図表2-5. 被介護者の状況（複数回答）

単位：%



注) 本集計は被介護者数 (112人) に対して行われている。

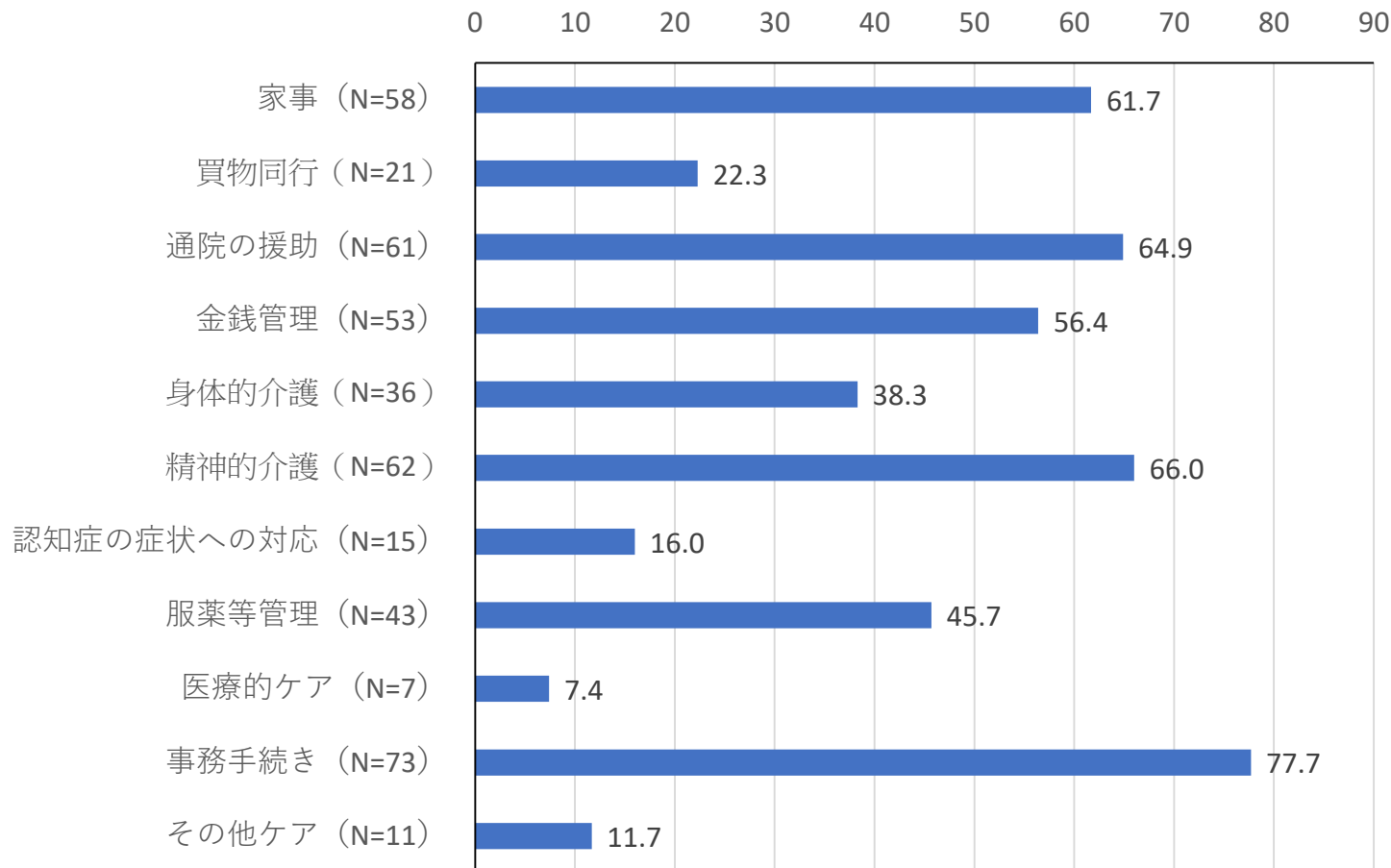
3.ケアの状況

3-1 ケアの内容

- ケアラーから見たケアの内容をみると（N=94）、「事務手続き等」（N=73）が77.7%で最も高く、次いで「精神的介護」（N=62）が66.0%、「通院の援助」（N=61）が64.9%、「家事」（N=58）が61.7%の順であった。

図表3-1. ケアラーにおけるケアの内容（複数回答）

単位：%



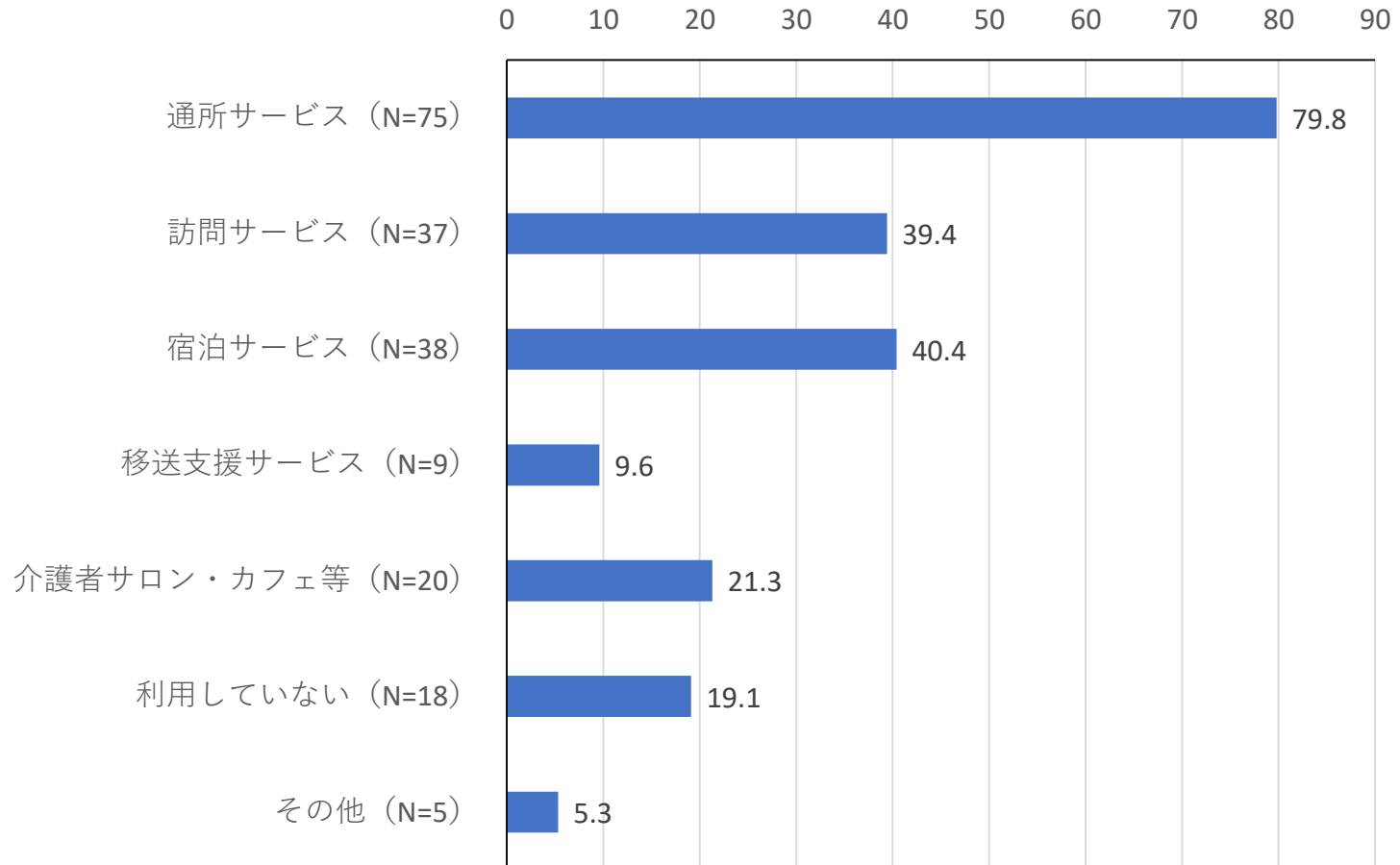
注) 本集計はケアラー本人 (94人) に対して行われている。

3-2 利用している（していた）サービス

- 利用している（していた）サービス（N=94）をみると、「通所サービス」（N=75）が79.8%で最も高く、次いで「宿泊サービス」（N=38）が40.4%、「訪問サービス」（N=37）が39.4%、「介護者サロン・カフェ等」（N=20）が21.3%の順であった。

図表3-2.利用している（していた）サービス（複数回答）

単位：%

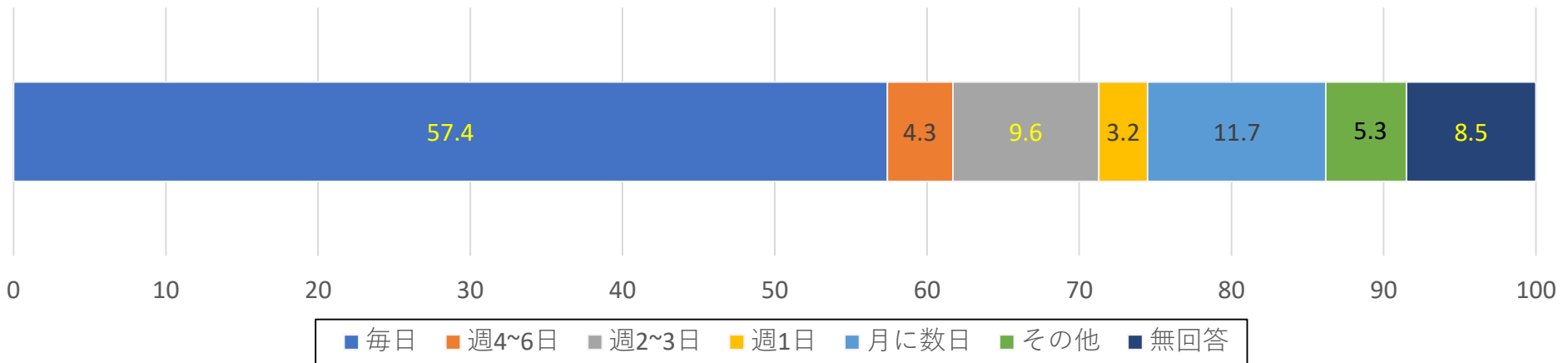


注) 本集計はケアラー本人（94人）に対して行われている。

3-3 ケアラーのケアの頻度

- ケアラー（N=94）のケアの頻度をみると、「毎日」（N=54）が57.4%で最も高く、次いで「月に数日」（N=11）が11.7%、「週2～3日」（N=9）が9.6%の順であった。

図表3-3. ケアの頻度の割合



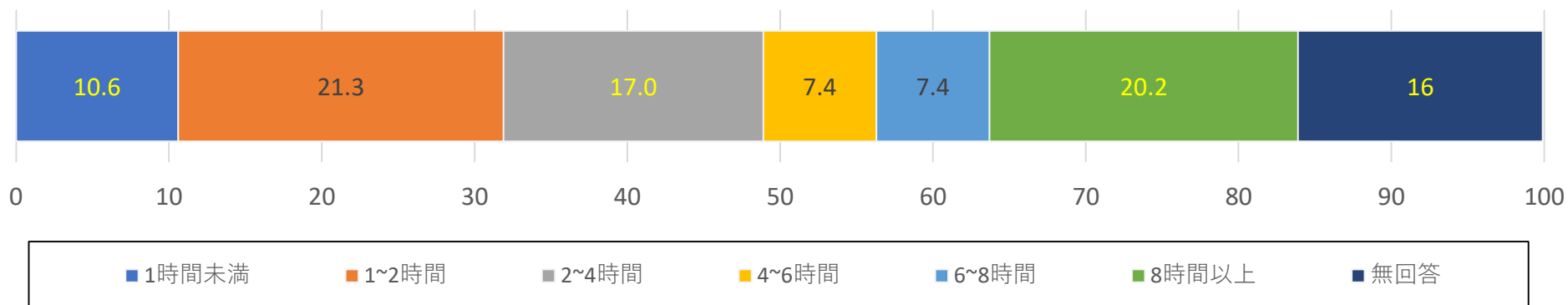
	毎日	週4~6日	週2~3日	週1日	月に数日	その他	無回答
ケアラー総数 (N=94)	54	4	9	3	11	5	8
割合 (%)	57.4	4.3	9.6	3.2	11.7	5.3	8.5

注) 本集計はケアラー本人（94人）に対して行われている。

3-4 ケアにかかる時間

- ケアにかかる時間（N=94）の構成割合をみると、「1時間以上2時間未満」（N=20）が21.3%で最も高く、次いで「8時間以上」（N=19）が20.2%、「2時間以上4時間未満」（N=16）が17.0%であった。

図表3-4. ケアにかかる時間の割合



	1時間未満	1時間以上 2時間未満	2時間以上 4時間未満	4時間以上 6時間未満	6時間以上 8時間未満	8時間以上	無回答
ケアラー総数 (N=94)	10	20	16	7	7	19	15
割合 (%)	10.6	21.3	17.0	7.4	7.4	20.2	16.0

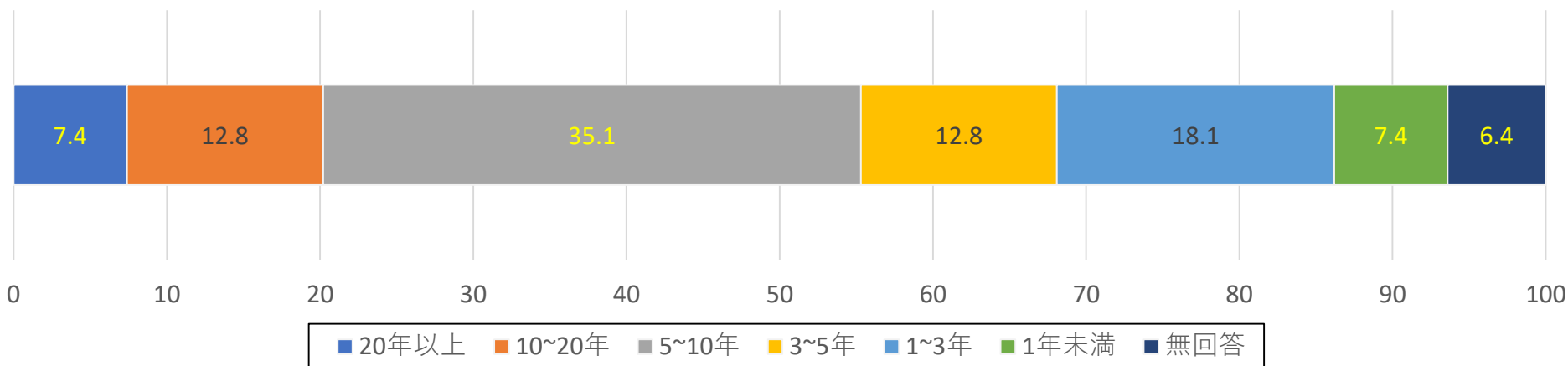
注) 本集計はケアラー本人（94人）に対して行われている。

© 2020 Saitama Prefecture. All Rights Reserved.

3-5 ケアの期間

- ケアの期間（N=94）の構成割合をみると、「5～10年」（N=33）が35.1%で最も高く、次いで「1～3年」（N=17）が18.1%、「3～5年」（N=12）、「10～20年」（N=12）が12.8%の順であった。

図表3-5. ケアの期間の割合



	20年以上	10～20年	5～10年	3～5年	1～3年	1年未満	無回答
ケアラー総数 (N=94)	7	12	33	12	17	7	6
割合 (%)	7.4	12.8	35.1	12.8	18.1	7.4	6.4

注) 本集計はケアラー本人 (94人) に対して行われている。

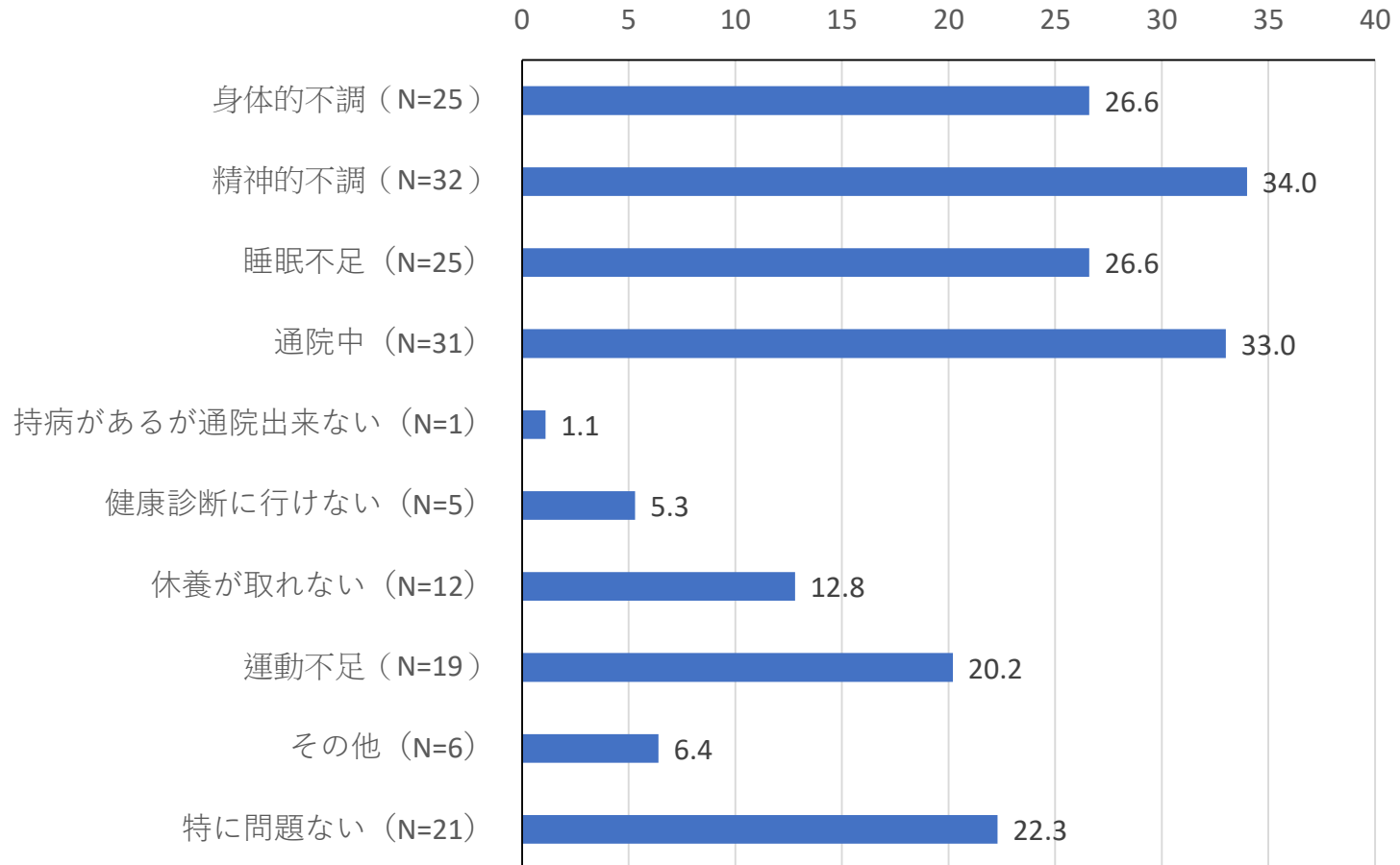
4. ケアの影響

4-1 ケアラー本人の健康状態

- ケアラー本人の健康状態（N=94）をみると、「精神的不調」（N=32）が34.0%で最も高く、次いで「通院している」（N=31）が33.0%、「身体的不調」（N=25）、「睡眠不足」（N=25）が26.6%の順であった。

図表4-1.ケアラー本人の健康状態（複数回答）

単位：%

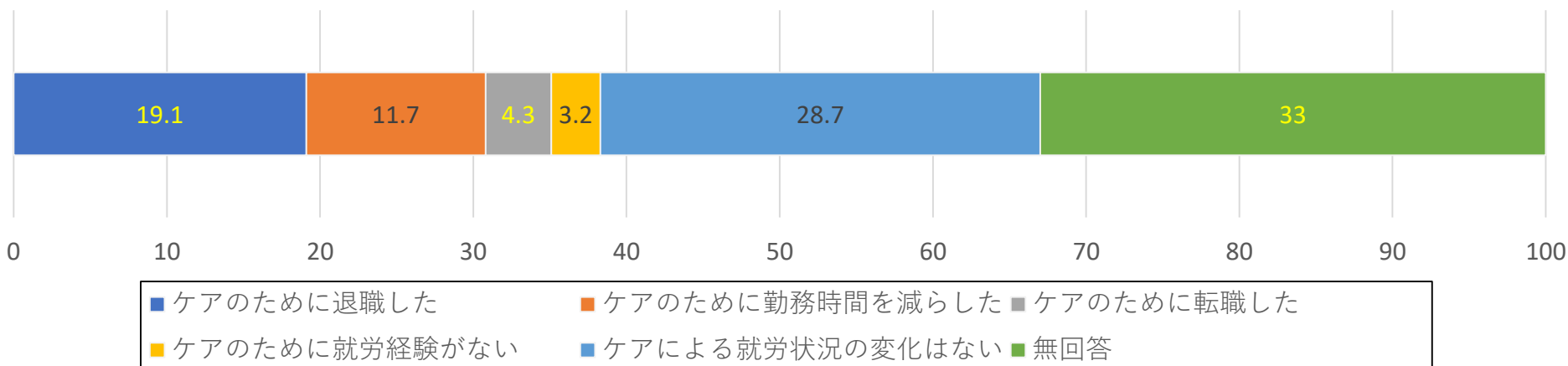


注) 本集計はケアラー本人（94人）に対して行われている。

4-2 ケアによる就労状況の変化

- ケアによる就労状況の変化（N=94）の構成割合をみると、「無回答」（N=31）が33.0%で最も高く、次いで「ケアによる就労状況の変化はない」（N=27）が28.7%、「ケアのために退職した」（N=18）が19.1%、「勤務時間を減らした」（N=11）が11.7%、「ケアのために退職した」（N=18）が19.1%、「勤務時間を減らした」（N=11）が11.7%の順であった。

図表4-2. ケアによる就労状況の変化の割合



	ケアのために退職した	ケアのために勤務時間を減らした	ケアのために転職した	ケアのために就労経験がない	ケアによる就労状況の変化はない	無回答
ケアラー総数 (N=94)	18	11	4	3	27	31
割合 (%)	19.1	11.7	4.3	3.2	28.7	33.0

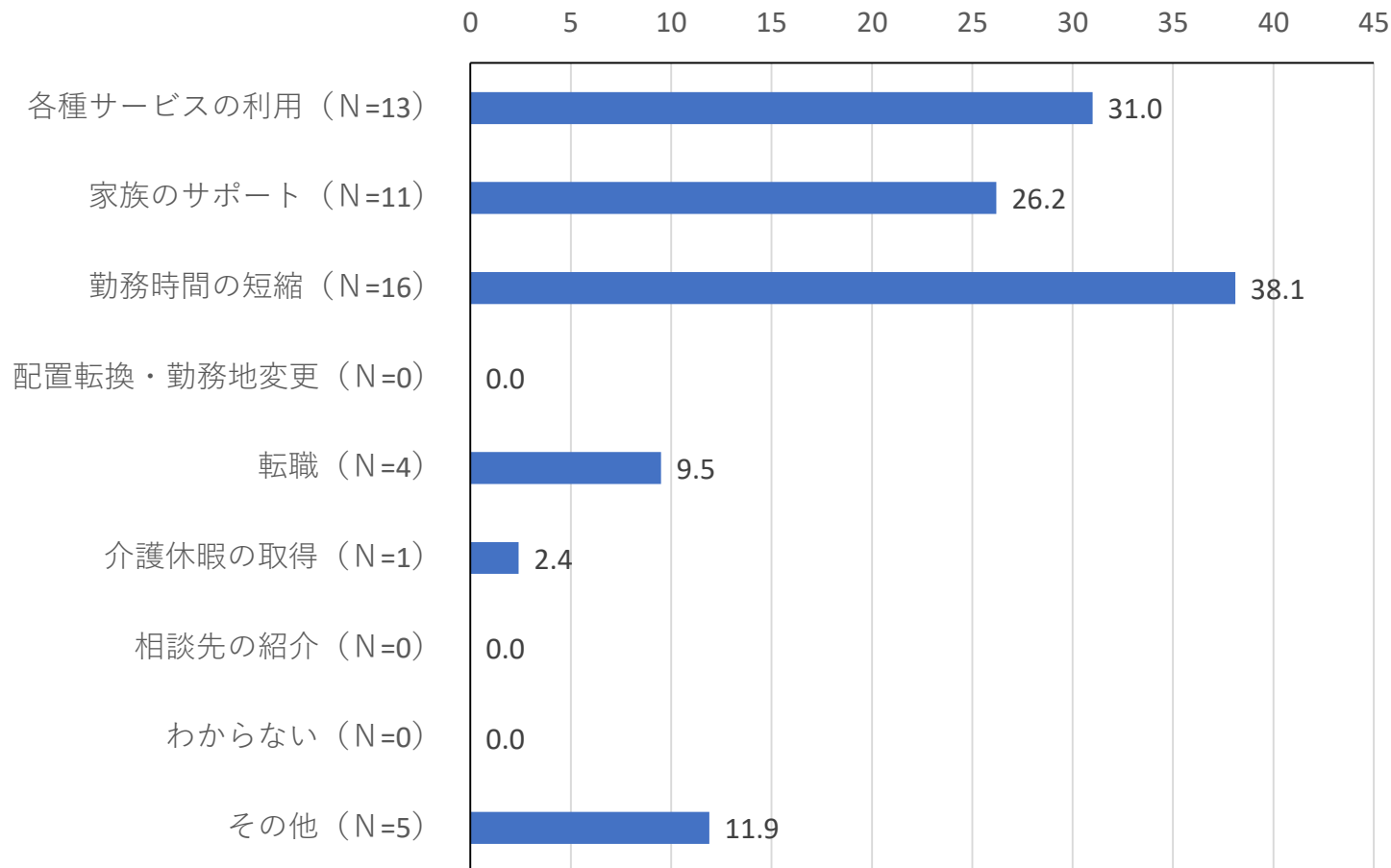
注) 本集計はケアラー本人（94人）に対して行われている。

4-3 就労を続けられている理由

- 就労を続けられている理由（N=42）の構成割合をみると、「勤務時間の短縮」（N=16）が38.1%で最も高く、次いで「各種サービスの利用」（N=13）が31.0%、「家族のサポート」（N=11）が26.2%、「その他」（N=5）が11.9%の順であった。

図表4-3. 就労を続けられている理由（複数回答）

単位：%



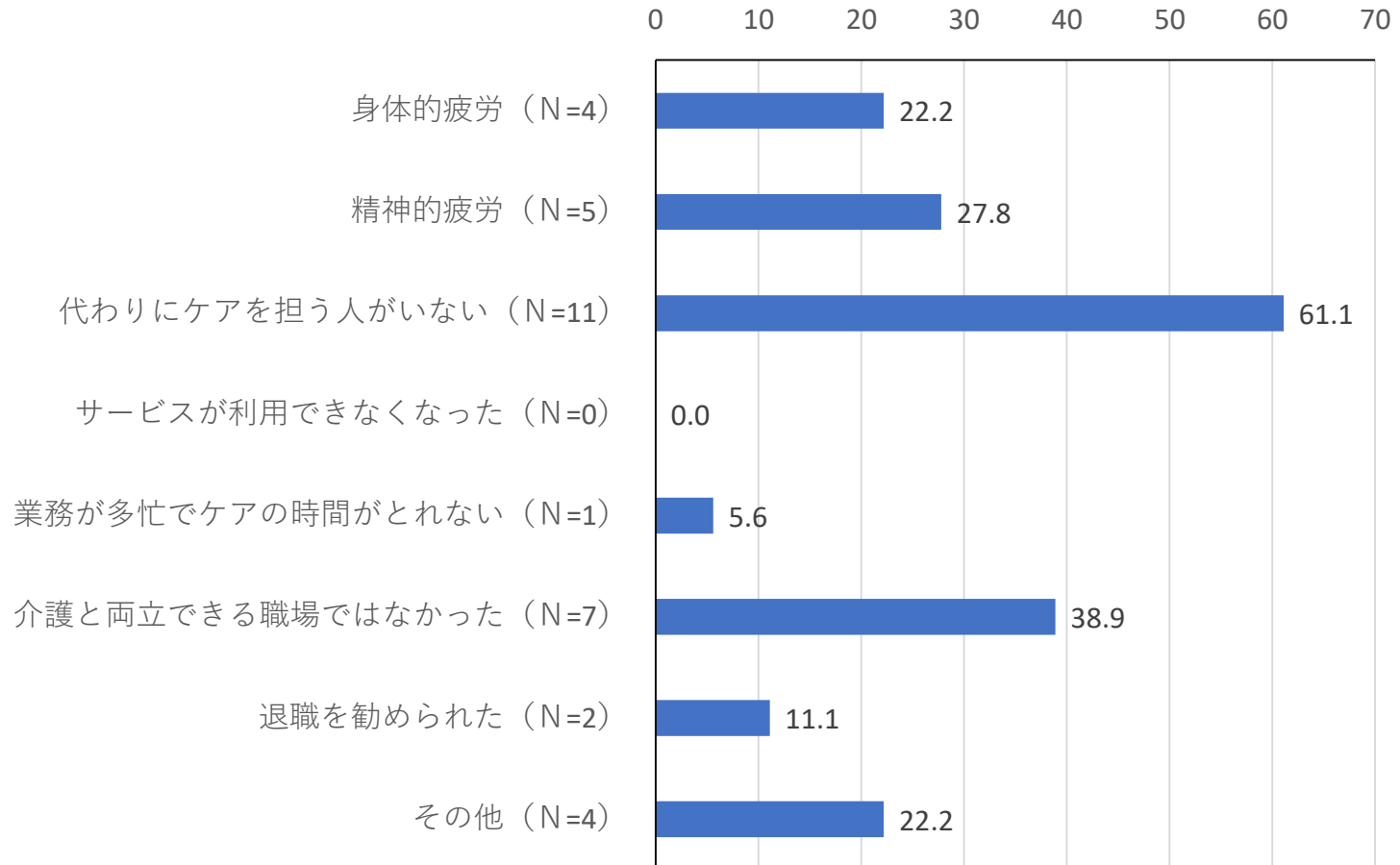
注) 本集計は就労を続けられている方（42人）に対して行われている。

4-4 ケアを機に退職した理由

- ケアを機に退職した理由（N=18）の構成割合をみると、「代わりにケアを担う人がいない」（N=11）が61.1%で最も高く、次いで「介護と両立できる環境でなかった」（N=7）が38.9%、「精神的疲労」（N=5）が27.8%、「身体的疲労」（N=4）、「その他」（N=4）が22.2%、の順であった。

図表4-4. 就労を続けられている理由（複数回答）

単位：%



注）本集計はケアを機に退職された方（18人）に対して行われている。

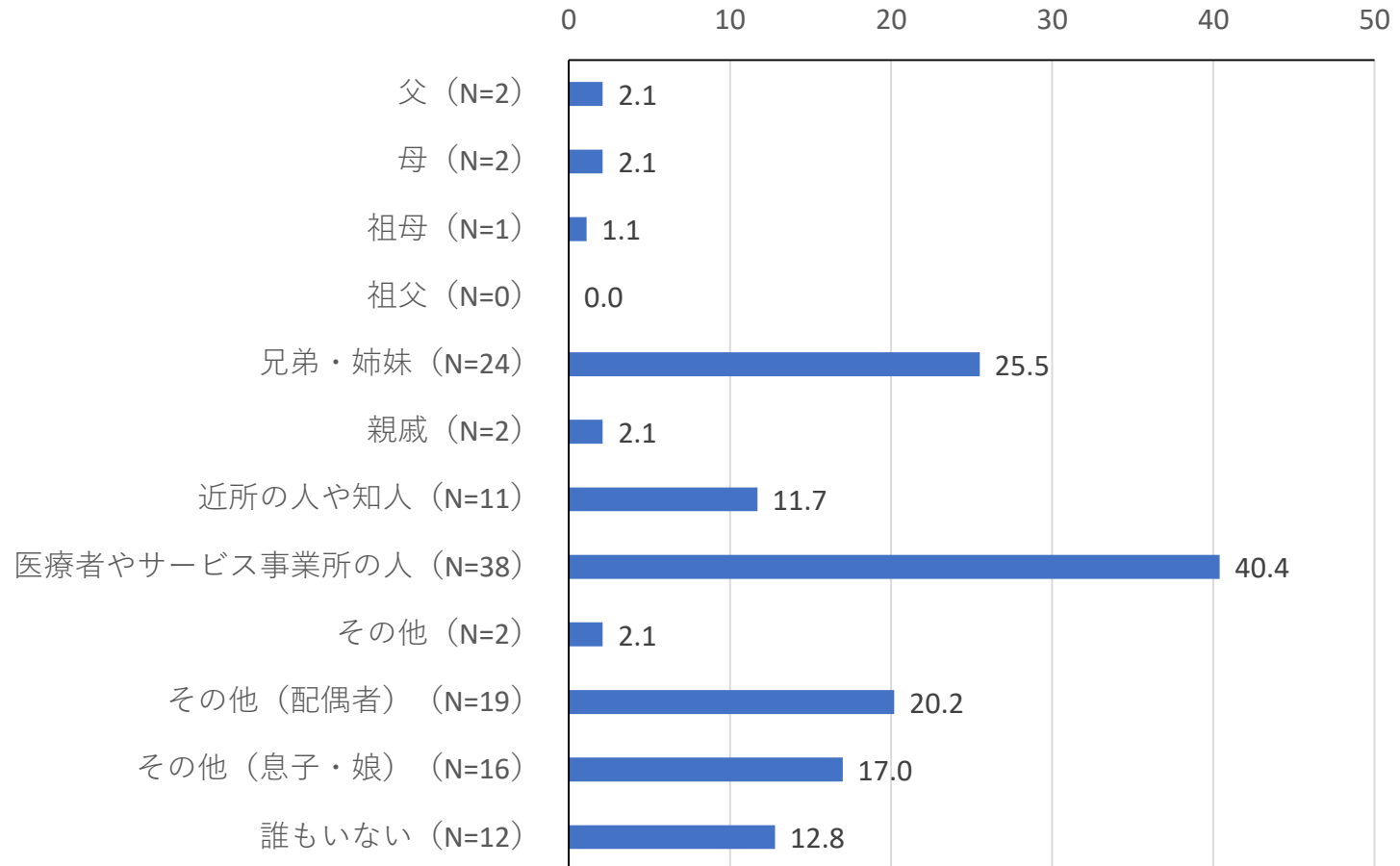
5. ケアラーが抱える悩みと必要な支援

5-1 ケアに協力してくれる人

- ケアに協力してくれる人（N=94）をみると、「医療者やサービス事業所の人」（N=38）が40.4%で最も高く、次いで「兄弟・姉妹」（N=24）が25.5%、「配偶者」（N=19）が20.2%の順であった。

図表5-1. ケアに協力してくれる人（複数回答）

単位：%



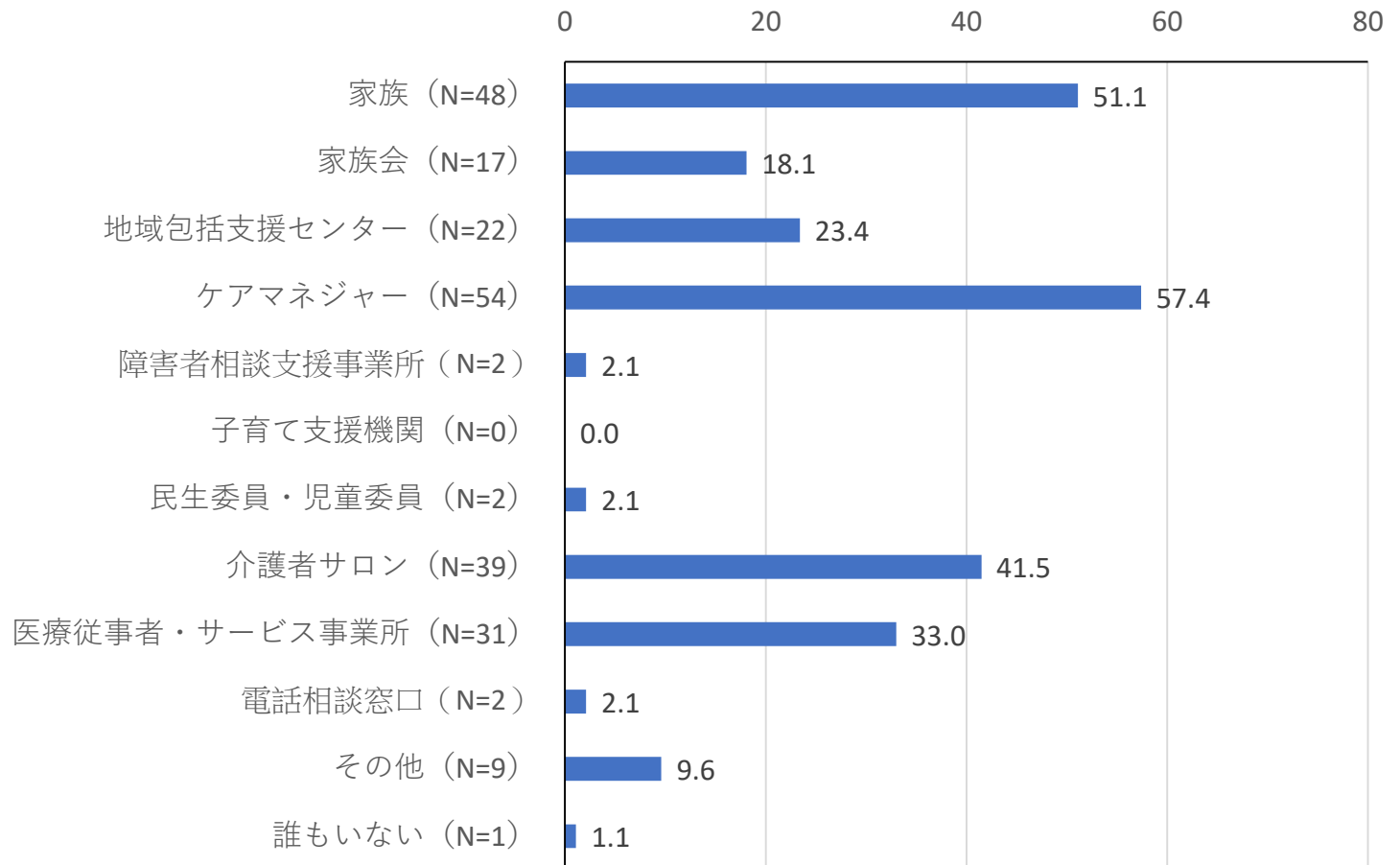
注) 本集計はケアラー本人（94人）に対して行われている。

5-2 相談できる人や窓口

- ケアラーが相談できる人や窓口・機関（N=94）をみると、「ケアマネジャー」（N=54）が57.4%、「家族」（N=48）が51.1%で最も高く、次いで「介護者サロン」（N=39）が41.5%の順であった。

図表5-2. 相談できる人や窓口（複数回答）

単位：%

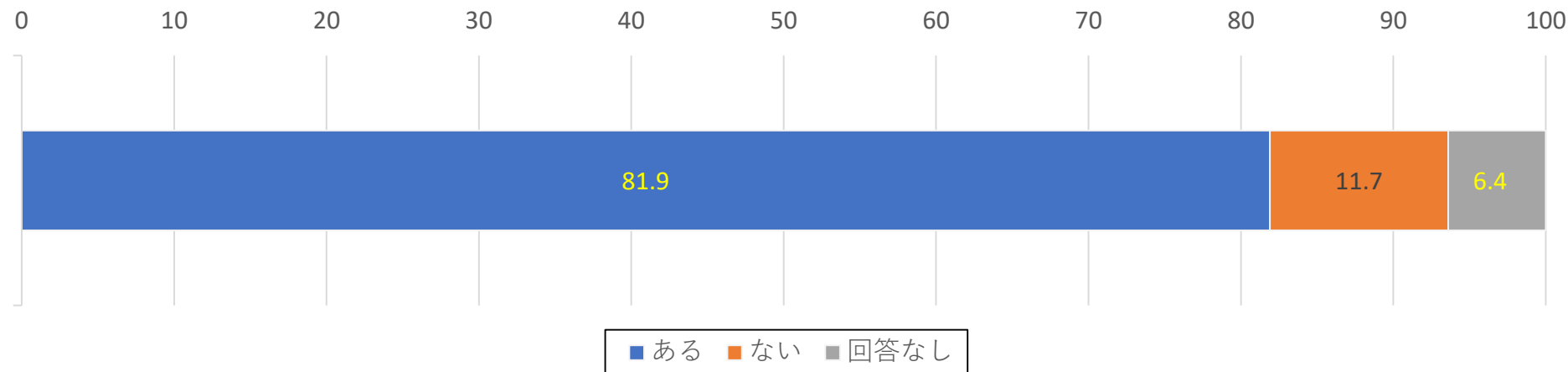


注) 本集計はケアラー本人（94人）に対して行われている。

5-3 ケアラーの悩みの有無

- ケアが原因の悩みの有無（N=94）の構成割合をみると、「ある」（N=77）が81.9%、「ない」（N=11）が11.7%、「回答なし」（N=6）が6.4%であった。

図表5-3. ケアラーの悩みの有無の割合



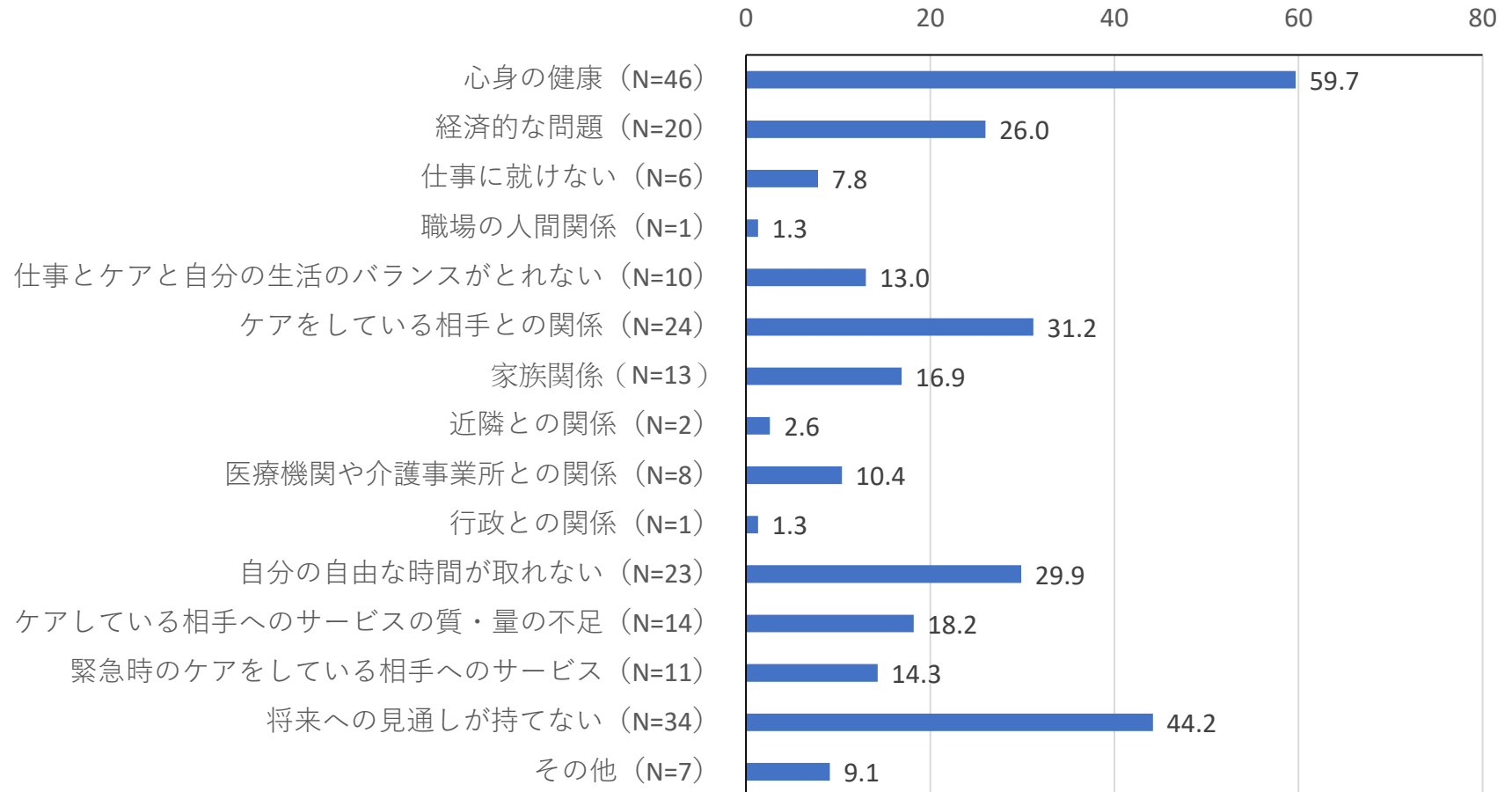
	ある	ない	回答なし
ケアラー総数 (N=94)	77	11	6
割合 (%)	81.9	11.7	6.4

注) 本集計はケアラー本人 (94人) に対して行われている。

5-4 ケアラーの悩み

- 悩み（N=77）をみると、「心身の健康」（N=46）が59.7%で最も高く、次いで「将来への見通しが持てない」（N=34）が44.2、「ケアしている相手との関係」（N=24）が31.2%の順であった。

図表5-4. ケアラーの悩み（複数回答）

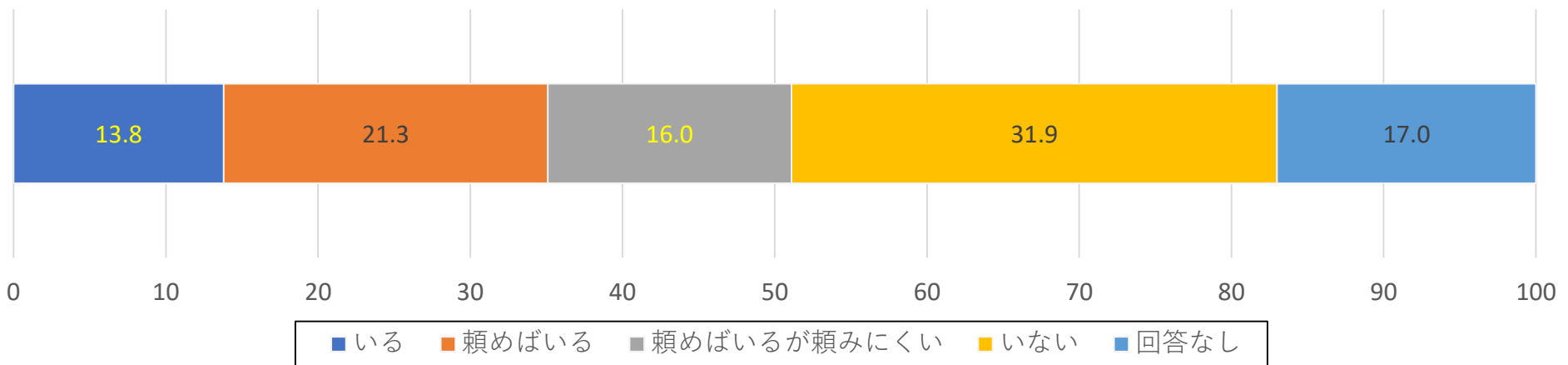


注) 本集計はケアが原因の悩みがある方（77人）に対して行われている。

5 - 5 代わりにケアを担ってくれる人の有無

- 代わりにケアを担ってくれる人の有無（N=94）の構成割合をみると、「いない」（N=30）が31.9%で最も高く、次いで「頼めばいる」（N=20）が21.3%、「無回答」（N=16）が17.0%の順であった。

図表5-5. 代わりにケアを担ってくれる人の有無の割合



	いる	頼めばいる	頼めばいるが頼みにくい	いない	回答なし
ケアラー総数 (N=94)	13	20	15	30	16
割合 (%)	13.8	21.3	16.0	31.9	17.0

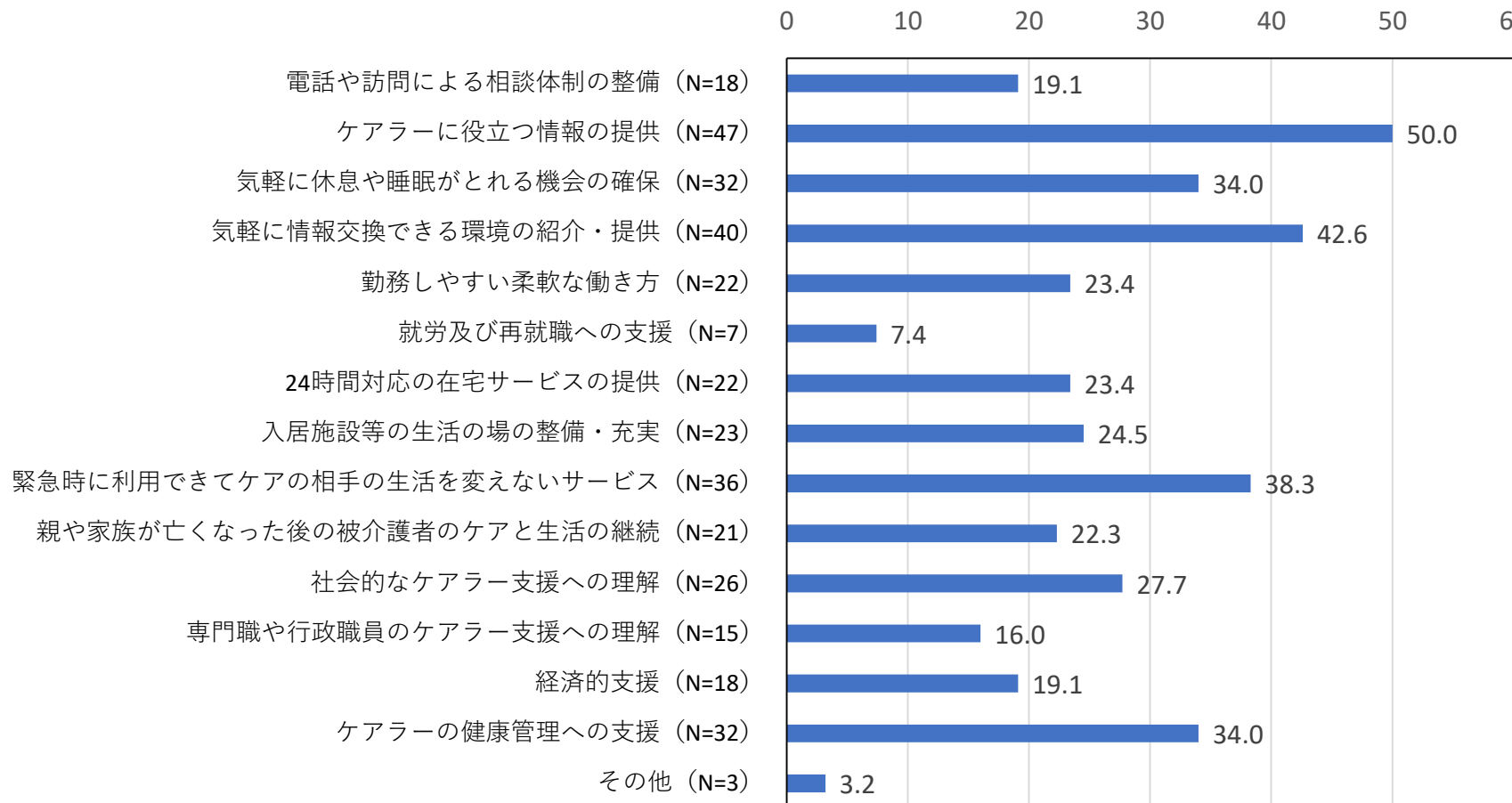
注) 本集計はケアラー本人 (94人) に対して行われている。

5-6 ケアラーが必要と考える支援

- 必要と考える支援（N=94）をみると、「ケアラーに役立つ情報の提供」（N=47）が50.0%で最も高く、次いで「気軽に情報交換できる環境の紹介・提供」（N=40）が42.6%、「緊急時に利用できてケアの相手の生活を変えないサービス」（N=36）が38.3%の順であった。

図表5-6. ケアラーが必要と考える支援（複数回答）

単位：%



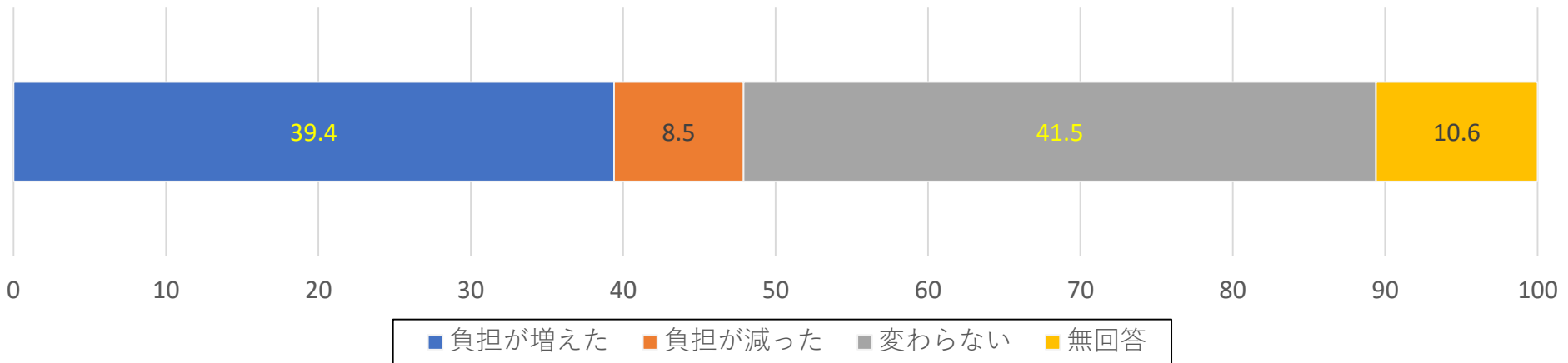
注) 本集計はケアラー本人（94人）に対して行われている。

6 . その他

6-1 新型コロナウイルスの影響

- 新型コロナウイルスの影響（N=94）の構成割合をみると、「変わらない」（N=39）が41.5%で最も高く、次いで「負担が増えた」（N=37）が39.4%、「負担が減った」（N=8）が8.5%であった。

図表6-1. 新型コロナウイルスの影響の割合



	負担が増えた	負担が減った	変わらない	回答なし
ケアラー総数 (N=94)	37	8	39	10
割合 (%)	39.4	8.5	41.5	10.6

注) 本集計はケアラー本人 (94人) に対して行われている。

6-2 悩み、行政や関係機関への要望、新型コロナウイルスの影響で特に困ったこと（自由意見）

- ケアラーにとっての悩み、行政や関係機関への要望、新型コロナウイルスの影響で特に困ったことについて、主な意見は以下のとおりであった。

- 前に比べて、ケアラーへのニュースなどが報道されるようになり、理解が進んで、行政職員さんの対応も、やさしくしてくれるようになっている。災害時等がこれから心配なので、ひき続き、社会への理解が進んで、住みやすい世の中になってほしいと思っている。
- 現在は地域の介護者カフェに参加し、共感していただいたり話す場があることで心の平安が保たれています。
- 常にリスクを考えながら介護をしなければならない精神的な不安がある。
- 障害の重い娘と暮しています。生れた時からの障害です。32年一緒にいて、暮らしを築いてきました。そろそろ親離れ子離れを考えないという、時期に来ています。しかし、現行制度ではなかなかそれができないところがあります。